
第4回江府町議会6月定例会会議録（第2日）

令和4年6月14日（火曜日）

議事日程

日程第1 町政に対する一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（8名）

1番 加藤周二	2番 芦立喜男	4番 川端登志一
5番 阿部朝親	6番 三輪英男	7番 長岡邦一
8番 川端雄勇	9番 三好晋也	

欠席議員（1名）

3番 森田哲也

欠員（1名）

事務局出席職員職氏名

事務局長 松井英樹

説明のため出席した者の職氏名

町長	白石祐治	副町長	八幡徳弘
教育長	富田敦司	総務課長	生田志保
住民生活課長	松原順二	産業建設課長	末次義晃
教育課長	加藤邦樹	会計管理者	藤原靖
学事担当課長	谷田孝之		

午前10時00分開議

○議長（三好 晋也君） 本日の欠席通告は森田哲也議員の1名であります。

ただいまの出席議員数は8名です。地方自治法第113条の規定による定足数に達しておりますので、令和4年第4回江府町議会6月定例会2日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、配付のとおりであります。

直ちに議事に入ります。

日程第1 町政に対する一般質問

○議長（三好 晋也君） 日程第1、町政に対する一般質問。

質問者の順序は、通告順のとおり日程に従って行います。

なお、1人につき質問、答弁を含めて60分で進行します。

質問者、2番、芦立喜男議員の質問を許可します。

芦立喜男議員。

○議員（2番 芦立 喜男君） 2番、芦立でございます。最初に、農業について質問したいと思います。

いよいよ梅雨も近くなってきて、湿度が高く、じめじめとした季節になってまいりました。田んぼも江府町からの助成金を頂き、今年も新たに田植も終わり、草との闘いの季節がやってまいりました。ありがとうございます。

ここに来て、田んぼや畑に入れる肥料が高くなってきました。大体化成肥料で30%から80%の値上がりって聞いております。これからもっと上がるような話も聞いてはおります。この間、グリーンこうふに行ったときに農家の男性が来まして、604を5つごせって。604というのは、タマネギとかニンニクとかそういうものの特効薬というか、肥料でございますが、何だ、こげん高あなっとうだか、要らんわって言って帰ってしまいなったのを見ました。それぐらい肥料が高くなっております。

今後の農業はどうなるんだろう、どうなっていくんだろうという話をしたいと思います。私なりにも考えてみました。町長のほうにも12月の一般質問のときに、20年後の、江府町いうか日本の農業はどうなっとうでしようかねっとうという話をしましたが、その回答もひとつお願いしたいと思います。

現在、日本の人口は1億2,500万となってしまいました。ピーク時が平成22年、2010年ですが、1億2,800万、もはや日本の人口は300万減りました。人口のピーク時には82

0万トン前後の米の需要があったわけですが、令和3年では703万トンとなり、120万トン前後も減少してしまいました。

加えて、国民1人当たりの年間幾ら食べているのかというのも、前回もちょっと触れましたが、やはり調べました。昭和37年に118.3キロ、1人当たり食べておりました。大体毎年500グラムから800グラムずつ減少しています。今、令和3年では50.7キログラムまで落ちました。どうもこのまま5年、10年、20年とたっていくと、もっと減るのか、あるいは止まるのか、回復するのか、この辺は定かではないですが、実際に今まで500グラムから800グラム年間減ってきた量と、1人当たりの食べる量と考えれば、減っていくほうが多いんじゃないかなという具合に思います。

20年後の日本の人口は1億500万人と政府のほうが発表しておりますが、実際に1億を切るのが26年後、9,900万人となります。ちなみに、78年後の日本は、2100年、ずっと先の話であんまりそぐいませんが、6,407万人と予測があります。今の人口の半分になるということでございます。2100年の話は別にして、20年後の1人当たりの消費で算出しますと、45キロぐらいかなと、今から5キロぐらいまんだ落ちるんじゃないかなということでも算出しますと、472万5,000トンとなります。ちなみに、700万トンからですから、67%、3分の1は米が要らんように、今からでもなります。各地で減反幅っていうのはその地方その地方で違ってくるとは思いますが、単純に考えて、江府町の農業、鳥取県の農業、日本の農業、3分の1は減反です。米価は、当然米がだんだん要らんようになります、作らんようにもなりますが、上がりません。これから農家は、米作りに対しては非常に苦しい時代が続くんじゃないかと思われれます。

一つには、何で米を作るのかという話もありますが、米作りが一番、前回にも言いました。労働時間が29時間と、1反当たりの時間が29時間と非常に短い。野菜をする、トマトをする、キャベツ、ブロッコリーああですが、その10倍以上の手間がかかるというのがあって、みんなが米を作るということになるんじゃないかと思えます。

しかしながら、米ばかり作っちゃったっていけないということは分かっております。米作りから、町長の得意な新甘泉、梨や柿やそういうのを含めた、麦、大豆、野菜物を転作していかなければなりません。米以外のものを作ろうと思いますと、排水のよい圃場にしなければなりません。江府町では、圃場整備をしてから、今の広い田んぼ、2反、あるいは3反の田んぼにしてからもう20年以上、25年たっております。暗渠排水をしていない田んぼがほとんどでございます。今頃やろうと考えちゃうなあ人がおったりします。暗渠排水していない田んぼは水抜けが大変悪

く、米以外の作物を作るのは非常に不向きな状態です。せめて明渠排水、いわゆる額縁と言われる排水方法を取って、米以外の作物、今は麦やソバや大豆や作っておりますが、これでは収量は上がりません。農業新聞に出ておりました三重県の農業試験場の話では、額縁と暗渠排水の違いは、水抜けがいい、悪いがあって、大体3割から4割ぐらいは暗渠排水を造ると収量が上がるということが出ておりました。

みんなもう暗渠排水をしたいと考えるわけですが、補助金が県と町とで7割、個人負担が3割というのが、今、鳥取県、あるいは江府町の状況だと。この間も役場のほうに行きまして聞きました。3割負担、例えば120万かかったら、3割いうと40万か、ぐらいだと思いますが、ちょっと二の足を踏んでしまいます。やりたいけど個人負担が高いということがあります。

暗渠排水を、この間、この間いって4年ぐらい前に宮市原集落のほうでやりましたが、そのときは3反、正確に言うと2反6畝で排水を1本入れて、湧水があるということで、1本入れたそうなのですが、その当時120万かかったということで、結局40万を集落のほうで出したと。普通は3本入れますから、もうちょっと120万より高く200万というような格好になるんじゃないかと思います。そうすると、個人負担は60万ぐらいいかなとなります。これからの江府町の農業のためにもっと補助金を出して、2割、あるいは1割の負担にしていきたいということをお願いします。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 芦立議員の御質問にお答えします。

農業についての現状、いろいろとお話しになりました。米の話から、転作していろんな、麦、ソバ、大豆、作るような話。最終的には、そのために暗渠排水が必要なんだけども、今の個人負担が3割なんで、それを2割とか1割にしてもらえないかというお話でございました。

補助制度自体は既に担当課のほうにお聞きになっているということでしたので、ここで殊さら説明するのもどうかなということでございますので割愛いたしまして、質問自体が、補助率を下げてはどうかということですので、これに関しては、今、一つの御提案として話が出たわけですので、実際どれぐらいの要望があって、どれぐらいの効果があるのかとか、あるいは、よその町とのバランスとか、そういったものをちょっと検討してみないと、何ともここではお答えのしようがないなというふうに思っております。

ただ、一つ言いたいのは、先ほども議員もおっしゃった中に、これからの人口減少のお話がありました。ですので、せっかく暗渠排水を整えたときに、本当にそれが耕作していただけるのか

どうか、その辺りの保証というか確証がない状態でどんどんやっていくのはどうなのかなという懸念もちょっとしております。

ちなみに、今、集落営農というのをどんどん進めていただけてます、江府町の場合はですね。特に、議員は江尾地区でございますので、私も同じ江尾地区の人間として、あそこの20ヘクタールぐらいある田んぼが、平成29年度に集落営農やろうかなということで勉強会を立ち上げをされて、その後全く動いていないというのをちょっと懸念しています。ですので、せっかくこれから農業をどうしようかというお話をすごく興味を持ってされておりますので、そこら辺りを何とかまとめて動かすようなことも併せて御検討いただければなというふうに思う次第でございます。私のほうからは以上でございます。

○議長（三好 晋也君） 町長、最初の質問、20年後の農業についての答弁もお願いします。

○町長（白石 祐治君） すみません、20年後の農業についてということで、ここまではそんなに真剣に問われてないのかなという気がしてちょっとお答えしなかったんですけども、12月の一般質問のときに言ったとおっしゃいましたけども、確かにおっしゃっております、議事録を見ました。ただ、私、そのときに、考えてみるとは約束してなかったもので、ちょっとお約束はしていないということでございます。実際どうなのかと言われると、はっきり言って分かりません。世界情勢が、例えばああやってロシアがウクライナに攻めるとか、いろんなことが起こってきますので、20年後にどうなってるかっていうのはちょっと分かりません。

しかしながら、令和元年の8月30日に農林水産省がこういうデータを発表しています。でも、これもあくまでも人口予測にとどまっています。農山村における人口減少と高齢化、これが地域差を伴いながらも加速するというふうに予測をされています。特に深刻な山間農業地域においては、今後30年間、ですので、これ、2015年を基軸にしていますので2045年。だから、ちょうど今から20年ぐらいになるんですけども、人口が半減すると。なおかつ、過半が65歳以上の高齢者になるということですので、なかなか厳しい状況になるであろうというのが20年後の姿であろうと思います。

どうなっているでしょうかと質問なのでそこまでなんですけども、じゃあ、それでどうしたらいいのかというお話になりますと、やはり一つには、みんなで何とか農地を守っていく。ただ、限界がありますので、全てを守れるかとなるとなかなか難しいので、ある程度エリアを絞っていくとか、そういったことも考える必要があるんじゃないかなというふうに思います。以上でございます。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば許可します。

芦立議員。

○議員（２番 芦立 喜男君） お答えありがとうございます。

恐らくこれから農業の暗渠排水をやろうと考える人は、例えば後継ぎがあるとか、集落営農をやって、集落営農がまだ20年、30年続くという人が恐らく暗渠排水をやりたいなど。もう担い手がなくて、もうこの畑は、田んぼはいずれ耕作放棄地になあかもしれないという人は、暗渠排水をやりたいなど申し込むことは少ないじゃないかと。

今後20年先の話を私はしてきました。20年、今、暗渠排水をどげでもせにゃいけんという話をしちょうわけじゃなしに、20年かけてでもだんだんに暗渠排水をして、そのために個人負担を少なくして、できればいいという話でございます。

もう一つは、江尾地区の集落営農について、私が投げかけた言葉が自分の顔にかかってまいりました。私もやらないけんなど思っております。ところが、みんなが賛成しないというのが一つあります。年を取っても頑張っちょうような人がおって、なかなかうまい具合に話がいかないということもあります。しかしながら、これは、おいおいいうか、この近いうち、二、三年には話を進めていかないけん話なんで進めていきたいと思っております。

最後にちょっと質問ですが、20年後の、これから米を本当に作らん、3分の1になったときに、野菜もんや果樹や、この辺で柿や梨が産地になるということを見ると、やっぱりやらないけんじゃないかなと思うのですが、どうでしょうか。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 米が食べなくなったという話がある中で、実は、先日、議員も委員でしたっけ、出とられた奥大山農業公社の役員会があった際に、飼料米はどうだという話もありました。結構国のほうから交付金が出て、割がいいんじゃないかなと。ただ、課題として、どこに売るのがとか、あるいは、刈り取るときの機械がまたちょっと特殊なもので新たな導入が必要だとか、いろんな課題があるというお話もそのときに出了たと思います。それで、これも一つの考え方のかなという気はしてまして、早速、これは担当課のほうで、現実問題として、できるのかどうかということを検討をさせたいというふうに思います。

ただ、また、先ほど江尾地区の話も出ましたけれども、やはりある程度まとまった団地をお持ちのところ、しかもその中心になっておられる方がもうかなり御高齢ですので、こういったところもとにかく早く、方針をとといいますか、向かう方向を定めて、町としてもそこに力いっぱい支援をしますので、できるだけ早く形にしていきたいと思っております。

ということで、本当にずっと先のことはなかなか分かりませんが、本当に目先のところで、できることをすぐにでも協力してやりたいと思っておりますので、ぜひ御協力のほどよろしくお願いたします。

○議長（三好 晋也君） 再質問がありますか。

○議員（2番 芦立 喜男君） ありがとうございます。

○議長（三好 晋也君） いいですか。

それでは、次の質問に移ってください。防災対策について。

○議員（2番 芦立 喜男君） 続きまして、防災対策の話をしたと思います。

実は、この一番近いところでは、昨日、おとついだったですかね、撮り鉄がたくさん、半の上の踏切の辺り、それから日野町のシュッポッポの辺り、たくさんいました。その中に入って、今日はどげな珍しいもんが来るだというような話をしたら、今日はね、ピンクの列車がディーゼル機関車に引かれて岡山まで行きます。これは、津山線を走る観光列車で、米子の後藤工場で修理、塗装したものを運んでいく、これを写します。ましてや、そのピンクの車両の先端に試運転と書いてあるので、非常にレアな列車が通るということでございました。こういう話ってどっから来るのって言ったら、もうJRのほうが公に公開しております。それを、俺らは、JRとか国鉄に興味がないけん分かんませんが、それを探して、珍しい列車、特殊な列車、あるいは国鉄色に変えた「やくも」なんかもそういう情報が入ると。その写すカメラの土台が三脚の上に乗っかります。その三脚は、カメラまでの高さが3メートル、実際に測ってみました。それから、脚の長さが1メートル70、脚立が150、大体みんなシュッポッポの前ではそういうのを並べて撮っておりなつた。

これがどういって防災の話になるかということなんですが、犯罪が起きる可能性が高いということが一つあります。特に、佐川辺りは、柿の木は切ってしまう、草刈りしちようと、「逃げ」なんてって撮り鉄に言われて、一生懸命草刈っとうに、もうちょっと言い方がないかやなんていってけんかになったり、それから、イボ竹を抜いてしまったりいうやなことで、ここまでの話は町長にも以前しました。こういうことがあっちゃいけんから警察に相談せえということと言われて、実際に警察に行きて、こうこうこうでこんなことが、あつ、分かりました、じゃあ、そういうときにパトロールします、で実際にパトロールしてくれるようになりました。が、警察もあつちこちいろんなところで出没するで、なかなか対応が取れんというようなことがありました。

一番の問題は、3月の1日、佐川地区で火災が発生という報がありました。実際には誤報だったわけですが、ごみ焼きの煙だったみたいですが、私も消防委員しております関係で、直ちに出

ました。佐川に行きました。そしたら、ちょうど国鉄色の「やくも」が通るときだったみたいで、20名ぐらいの人があそこの道の半分ぐらいを、この三脚と脚立と人間とで埋める状態です。あそこの道幅は3.8メートル、それは端から端までです。ところが、江尾川のほうはガードレールがあって、米子側は切り立った石垣と。舗装部分でいうと3.2メートル、そこに1.7メートルの脚立が立つと、軽トラも通れん状態になります。消防自動車がやってきましたが、なかなか逃げてくれん。1分1秒を争っちょるときに、消防自動車は軽トラよりも広いですね。僕は、測らあと思って忘れてしまって測れんかったですが、結構外側に吸管的のホースやいろんなもんが外に出ておりますので、なかなか、もう通れえになあと思っても、消防車も安全を確保せないけんけん通れんということになってしまっておりました。特に、行きがけも、時計見てなかったけん何分通れだったか、何秒通れだったかいうのは分かりませんが、帰り、帰りは2分近く通れませんでした。というのは、脚立があって、三脚があって、人間がおるという状況のところ。

私が言いたいのは、もうこの撮り鉄を、来んな、排除するのは無理じゃないかと思えます。どうやっても来ると思えます、線路が走っちょる以上は。江府町にお金が落ちることを考えたらどうなんだろうと思えます。例えば、あそこ、あそこというのは、すみません、佐川の下の踏切のあの道、3.8メートルの広さの道ですが、これをもうちょっと米子側に、例えば5メートル広げるとかして、そこに撮り鉄専用とか、江府町のスペースとして、撮り鉄に、そこで撮ってください。5メートルもあれば恐らくその道路を通る住民の車に影響はないじゃないかと思えます。そこで、お金を頂く。私も聞きました、撮り鉄に。あんたら、こげして何だか狭えところで無理してやって、一生懸命ええ写真を撮りなあたらあけど、これ、例えば、広いところがあって、お金が500円、1,000円かかあけども、そこで自由に撮ってくださいって言ったらお金払いますかって聞きました。そしたら、いや、そげだったら喜んで払わしていただきますということを行いました。先ほど、佐川でこういういろんなトラブルが起きとうよってという話をしましたが、本当にトラブルを起こす人は、10人のうち9人ぐらいは全然オーケーなんです。ちゃんと節度を守って、ルールを守って、ちゃんと線路の外側から、みんなに迷惑をかからんように撮ります。1割から5%の方がむちゃくちゃをします。ですんで、道の駅で、例えばそこを、米子側の道路のへとり5メートルを町が買い取って、造成をして、そこにお金を、ここに来る人はお金を1,000円払ってください。道の駅で売りゃあいいじゃないですか。それで、1,000円は高いなとわしも思うけど、そこに道の駅の割引券をつけて、500円分ぐらい、あるいは江府町の商工会の金券をつけたりなんかして、500円ぐらい、そうすると、町のほうにお金が落ちるいうことを考えたらどうかなという具合に思えます。

町長、ひとつよろしく申し上げます。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 芦立議員の御質問にお答えします。

今、撮り鉄の方が、江府町だけじゃなくてもたくさん、今、いろいろ撮影をされに、全国各地おられます。大半の方はきちっとされているけれども、一部の方がマナーを破って人に迷惑をかけるようなことをされていると。そこで、そういった撮り鉄の方のために撮影スポットを町のほうで用意をして、そこでお金を頂くというようなことをやってみてはどうかという御提案だったと思います。

結論から申し上げますと、考える気はございません。なぜかといいますと、これ、撮影されるのはそれぞれの個人の自由でございますので、法を犯さない、あるいは他人に迷惑をかけない、そういった場所を選んで撮影をされれば、そこしか場所がないというわけではありませぬので、どこでも撮影はできるので、そういったところで、安全なところで撮影をしていただければいいんじゃないかなと、私は思います。

幾らかでも町にお金が入るというお話でございましたけれども、例えば造成をする経費、それが回収できるのかどうか、あるいは安全管理、町が設置をするものですので、そこで事故が起きた場合にどうするのか、いろんな問題が起きてきます。そういったことも含めまして、本当にそれをやる意味があるのかどうかを考えたときに、私としてはやる考えはないということでございます。以上です。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば許可します。

芦立議員。

○議員（2番 芦立 喜男君） いろんなところでばらばらと、人が、撮り鉄が来るというお話ですが、実は、あそこの佐川は、撮り鉄の雑誌の中で有名な場所で、みんなあそこで撮りたいものを持っております。したがって、あそこに集中してしまう。集中するから住民とのトラブルが発生するということだと思います。

では、町長としては、撮り鉄を排除するという考えなのか、そのまま投げとけという考えなのか、造成してまではしない、迎えることはないという話、どっちなんでしょうか。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 芦立議員も警察署に問合せをされたということだったんですけども、私もこの質問を受けまして、黒坂警察署のほうに確認を取りました。住民の方に迷惑をかける、あるいは、通行される方に迷惑をかけるというような行為があれば、やはり警察に通報してほしいということでしたので、先ほど大半はマナーを守っているということでしたので、そういった方はいいと思いますが、やはり悪質な方の場合はそこから出ていっていただくということが私は正しいと思います。

○議長（三好 晋也君） 芦立議員。

○議員（2番 芦立 喜男君） では、町長の考え、排除したほうがいいという考えでよろしいですか。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） ルールを守ってきちっと撮ってる方はいいんですけども、人に迷惑をかけた、悪質な方は、排除するっていえば排除するということになるでしょう。警察に通報して、しかるべき処置を取っていただくということでございます。

○議長（三好 晋也君） 芦立議員。

○議員（2番 芦立 喜男君） ありがとうございます。

○議長（三好 晋也君） よろしいですか。

そうしますと、次の質問に移ってください。道の駅の駐車場拡充について。

○議員（2番 芦立 喜男君） 続きまして、道の駅、加えて、みちくさの駐車場の件についてお話しさせていただきます。

今年の5月3日、4日は、ゴールデンウィークの真ただ中、天気もよかったことがありまして、物すごい車が道路を走りました。道路をたくさん車が走ると、道の駅の駐車場に入ってくれます。要するに、道の駅、みちくさで買物してくれる人たちです。ところが、この3日、4日は、車は入るに入られず、出るに出られん状況でございました。私も見とりましたが、車が7台ぐらい中でつながって、動くことができない状態をつくっていました。せっかく道の駅、あるいはみちくさでお金を落としてくれる、江府町の関係人口になってくれる人たちが、駐車場に入れないために帰って行ってしまふ。非常に残念だなという具合に見ておりました。

駐車場の広さを調べてみました。日南町は、道の駅が100台以上、プラスまんだ町の職員の駐車場もあって、そこも止められます。そういう状況でした。それから、ちょっと似た場所っていえば似ちようかもしれんですが、犬狭峠の道の駅、これは大型が10台、普通車が35台だったですね、で45台。さらに、実際には道の駅の店舗の裏側、ここに15台入ります。ですから、

結構な量入ります。江府町は、私が見た中では一番少ないですね。軽、乗用車、それから充電装置があるところを含めて35台。それから、トラックが止めるスペース6台。このトラックが止めるスペースに乗用車が止めると、みちくさ側のほうが多いわけですが、トラックの運転手さんが怒りなあって、ここはトラックを止め場所だがな、何で自動車止めとうだというようなことになって、またこれもトラブルみたいな格好になる。

ですんで、今後コロナも落ち着いて、昨日あたりは米子4人だったじゃないですかね、高速道路や国道に多くの車が走り、または観光バスが走る。そうすると、多くの人、多くの車が、みちくさや道の駅に利用されると思います。ましてや、道の駅はみんな止まってもらわんと、トイレを使用してもらわんと、その辺の道端でしょんべんされても困あわけです。だけん、なるべく道の駅に入って、止まって、トイレをしたり、御飯を食べたり、買物をしたりしていただければええがなあと。

道の駅、あるいはみちくさの駐車場が狭い。極論は、平日は今のスペースで十分だとは思いますが、休日になりますと非常に混雑します。入れん車も出てきます。ぜひ駐車場を確保、先ほど町が金出いてというお話もありましたが、町も金出さないけんときは金出さないけん。下側でも上側でも、できたらもう20台ぐらい入れるスペースができたらいいなという具合に思います。

何言っても土地の話は地権者があることです。地権者が、どうしても売らない、何で町に売らないけんだなんてことになるやもしれません。そのときには、ちょっと道路を挟んで反対側になりますが、その佐川の住宅地の一部を、道の駅、みちくさの駐車場に利用できるようにしていただければいいなという具合に考えます。以上です。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 芦立議員の御質問にお答えします。

道の駅奥大山の駐車場が、台数があまり止められないと、ゴールデンウイークなんかはもうあふれていたというお話でございました。そこで拡充をすべきだというお話でございます。これは私も同感でございます。というのは、実は、あれを造るときに、上のほうの田んぼの地権者の方と交渉した経緯があるんですが、なかなか御了解いただけなくて、そのときは話がつきませんでした。もうちょっと駐車場のスペースが取れば、当初から余裕のある運営ができたのかなというふうに、私も感じてはいます。

ただ、議員もおっしゃいましたように、これは地権者の方がおられますので、売らないと言われたらもうどうしようもありません。そこで、方策としては、おっしゃいましたように、道路を

渡って向かい、今、佐川の団地の話もされましたけれども、今、実は、道の駅の駅長さんに伺ったところ、例えば、もし道を挟んでやるのであれば、臨時駐車場にしているようなところも使えるんじゃないかとか、いろいろお話も伺っています。ただ、そのときには、歩道橋をつけるか、押しボタン式の横断歩道とかつける必要があるということも伺っています。道の駅も7周年ということで、もうかなり軌道に乗ってきて、お客様も多いですし、やはり江府インター降りてすぐのところにある、町の顔のようなものでありますので、御提案があった佐川の住宅地を、確約するのはちょっと難しいんですけども、ただ、駐車場の台数を増やす方法は、ちょっとチャレンジしてみたいと思います。地権者がありますので確約はできませんが、向かうのは向かってみたいと思います。以上でございます。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば許可します。

芦立議員。

○議員（2番 芦立 喜男君） ありがとうございます。同感という言葉は初めていただきました。何か心がざわめくな、けつがかゆいなあみたいな、いや、うれしいなという具合に思います。

ただ、ただ言や変ですが、5月の3日、4日はすごい車で、店長にも聞いたら、駅長ですね、今までで最高の売上げを上げました。恐らくコロナが終息すれば、もっと多くの車が、人が、道の駅を目指して来るんじゃないかという具合に思います。この道の駅に来た人たちも、江府町に取り込めれば、関係人口として取り込まればなおええなあという具合に思います。ありがとうございました。

○議長（三好 晋也君） 以上で芦立喜男議員の一般質問を終了いたします。

○議長（三好 晋也君） ここで暫時休憩をいたします。再開は11時15分から。いや、これは違うな。11時ですか、10分ぐらいいいか。10分、それぐらいかかる。（発言する者あり）
11時からにしましょうか。

午前10時50分休憩

午前11時00分再開

○議長（三好 晋也君） 再開いたします。

冒頭、議長より御提案があります。先ほどの芦立議員の質問の中で、一部不適切な発言が認められます。これを議事録から削除したいと思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（三好 晋也君） ありがとうございます。

あと、後刻、議会運営委員会を開いていただいて、今後の反省、検討をしていただきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

続いて、質問者4番、川端登志一議員の質問を許可します。

川端登志一議員。

○議員（4番 川端登志一君） 失礼をいたします。4番、川端でございます。失礼してマスクを外させていただきます。議長の許可をいただきましたので、二、三お尋ねをいたします。

まず、最初に、公共施設等の管理作業についてであります。現在、町におきましては、施設の在り方の見直しについて鋭意進行中ではありますが、時の流れはとどまることを知らず、あっという間に季節は巡ってまいります。春ともなれば見る見る雑草が生い茂り、家屋の中にはほこりやカビがその勢力を広げようと機会をうかがっています。そうはさせじと、これらの撲滅対策に思案を巡らすのは、古今東西、官民間わず、変わらぬことかと思う次第であります。本町においても、職員の皆さんがこの暑さの中、懸命に除草作業に打ち込んでおられるのを目にいたします。ぜひとも安全に作業を続けていただきたいと願うところでございます。近年は機械化も進み、乗用の草刈り機なども活躍するようになりました。人手不足の昨今、大いに重宝することと考えます。

そこで、提案でございますが、比較的平面で、そして比較的面積の大きいものにつきましては、自立走行型の無人草刈り機を導入してはいかがでしょうか。単純で繰り返しの多い作業は無人機に任せ、急斜面や狭小、狭隘な場所など、人力に頼らざるを得ないところに人員を配置すれば、安全性とともに作業効率は一層向上するのではないかと考えます。そして、いつもきちんと整備された広場は広く町民の皆さんに利用していただくようにすべきと思います。

また、屋外に限らず屋内の清掃作業におきまして、同様に平坦な場所におきましては、ロボット型の掃除機を多用し、人にしかできないような場所に人力の効果を発揮していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。町長の御所見を伺います。よろしく申し上げます。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 川端登志一議員の御質問にお答えします。

公共施設の管理作業につきまして、機械化をして、例えば自立走行型の無人草刈り機、あるいはロボット型掃除機、こういったものを導入して、できるところはそういった機械で行って、人にしかできないところを人力でやって、効率化を図ってはどうかというお尋ねだったと思います。

おっしゃるように、まさにこれはDX、デジタルトランスフォーメーションの一つなのかなというふうに思います。わざわざ人の手を使わずにもできるところは、やはり機械でやる、まさにそれはそのとおりだというふうに思います。具体的に、それを町内のどこでどういうふうにするかということになりますと、ちょっとまだ検討しておりませんので、その辺りが具体的に見えてくれば、そういったものの導入も考えてみたいと思います。

ただ一つ、ロボット型掃除機につきましては、町長室は実はそれで週に1回掃除をしているということだけちょっと申し添えておきます。以上でございます。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば許可します。

川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） ありがとうございます。具体的な場所ということでございますが、例えばでございますけれども、上の段広場あるいはせせらぎ公園、そして江府町防災基地、また総合グラウンド等の非常に比較的平坦で広いような場所の雑草、あるいは芝生の管理には適しているのではないかなと思いますし、または庁舎の中におきましては、町長室は既に取り組んでおられるということでございますが、時々拝見いたしますと、庁舎の中の掃除等、職員の方が一生懸命やっておられますけれども、できればそういうところ、あるいは開発センターとか講堂の広いようなところも積極的に取り入れていただいて、職員の方は本来の職務に時間っていうですか、エネルギーを使っていたらどうかというふうに思いますし、また、もう一つ話を展開させて、今、江府町でも梨の、新甘泉に取り組んでおりますけれども、これを広く一般の方に作っていただくということで広めようということになっておりますが、これもGPS等、専門的な話になりますけれども、そのロボットにきちんと組み込んで、人がいない昼間あるいは夜中の中でもそういう果樹園の中の除草作業にも十分使えるということでございますので、さっきの芦立議員の質問ございました、農業の衰退をいかに止めて進展させるかということにもつながっていきますので、そして、まずは公の立場、役場等が率先して取り組んで、そしてその効果のほどを民間の方にお示しして、伝播させるということが一つの役目ではないかなというふうに思いますので、その辺り、もう一度御返事をお願いしたいというふうに思います。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） まさにおっしゃるとおりだと思います。私も賛成です。ただ、ちょっと予算をつけてやらないといけませんので、また具体的にちょっと検討しまして、御提案をしたいと思います。以上です。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば。

芦立議員。失礼、川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） ありがとうございます。そして、もう一つは、その後、きれいにしたところ、特に屋外のそういった広い広域の施設をぜひとも開放して、町民の方にどんどん使っていただけたらということでございます。今の御返事で、積極的にそういうロボット型の機械を使ってきれいにさせていただくと、そしてきれいに安全になったところで町民の皆さんにしっかりと有効活用をしてもらおうということでございます。1番には上の段広場、そして、せせらぎ公園がございます。それと、江尾の町から少し離れますけど、防災基地などは私もこの何年間か見る限り、有事のときには恐らくヘリコプターの発着に使われると思いますし、それから、年に何回か消防団の訓練ということで、団員の方が一生懸命訓練されているのを見かけますが、それ以外はどうも使用の様子がないようでございますので、そういうところにも一つ気を配っていただいて、昨今若いファミリーといいますか、ペットブームで、ペットに限りませんけれども、ファミリーでちょっと近くに出かけて団らんをするというような施設が欲しいというようなこともありますので、こういうところもちょっと利用範囲、設置条例などをちょっと見てみましたけれども、有事の際に防災備蓄庫を保蔵するというようなことはあります。人命または財産の保護に資することという目的はありますけれども、そういう一般の民間の人には使ってはいけないというような規則もございませんので、そういう辺りもちょっと今後考えていただきたいと思います。御返答のほどよろしくお願いします。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 上の段とかせせらぎ公園、特にせせらぎ公園などは、昨日も全員協議会のほうで、これからの活用について報告をさせていただいたところです。ですので、積極的に町民の方にも有効活用をしていただけるようなことをしていきたいというふうに思います。

御提案のあった防災基地なんですけれども、こちらについて、おっしゃることはよく分かります。私も使えるものならそういうふうにしたと思うんですけれども、ちょっと実際どのような規制というか定めがあるのかをちょっと精査してみないと、ここでいいというふうには申し上げられませんので、おっしゃりたいことはよく分かりましたので、その辺りを精査した上で対応したいと思います。以上です。

○議長（三好 晋也君） よろしいですか。

では、次の質問に移ってください。

○議員（４番 川端登志一君） そういたしますと、続きまして、土木技師等の人材に光をというテーマで質問をしたいと思います。

先頃、新聞の報道に深刻な土木技師不足とありました。新聞のほうには、技師の「し」が先生の「師」、師匠の「師」というふうになっておりましたので、原稿のほうはそう使わせていただきましたけれども、武士の「士」ではないかなというふうに個人的には思っております。県内の自治体が、総じて深刻な状況にあるということが報道されておりました。近年、一般質問でもお尋ねしていますけれども、我が町だけの問題ではなさそうでありますので、再度視点を変えて問うてみたいというふうに思います。

情報によれば、専門知識を持つ学生の採用は、民間との激しい競争にさらされているそうであります。言い換えれば、民間企業においても同様に深刻であるということでもあります。現在、防災・減災、国土強靱化のための５か年加速化対策が閣議決定され、進行中であります。私たち町民にとっても、大変力強くありがたいことだと思います。しかしながら、そのことを最前線で指揮監督する人や、実際に現場でものづくりを担う人材が不足している現状では、有事の際の不安を拭い去ることはできません。

一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会発行のレポートによれば、担い手不足、この場合、担い手とは技士だけでなく建設に関わる全てという意味でございます。担い手不足のその要因は、大きく分けて２つあると述べております。それは、労働環境と世間の認知としています。所得や就業場所など、労働環境としては比較的良好な自治体でも、人材確保が困難ということは、もう一方の世間の認知の比重が大きいのではないかと思います。

その解決策の１つとして、地位の向上を掲げています。一部を引用しますと、①施工業者が報道されない災害対応。（警察、消防、自衛隊は報道されるが、役場の職員や一線に出ている地元の業者は紹介されない）②イメージダウンの報道（事件、不祥事）の場合の呼び方など。③謝る習慣で自ら地位を下げる。（地域のための工事なのに住民に頭を下げて施工している。程度にもよるが、メンタルヘルスにも関わる）などがあります。今後、時間をかけて改善する必要があると思いますが、ここでは①に関係したことで、地位の向上やイメージアップにつながりそうな提案をしてみたいと思います。

１、優れた出来栄や難易度、危険度の高い工事、特に災害復旧工事などを顕彰する。２、発注者の監理、監督、技術者及び施工組織図や携わった人々の足跡を現場に記す。３、それらを電子化しQRコードなどで容易に閲覧可能にするなど、少しでも一線で働く人たちのモチベーションが上がることと、それを見守る町民の認知度がさらに、さらに上がるよう、他の町村に先駆け

て行動してみませんか。それが役場や地元の企業に多くの若者が定着することにつながり、結果として、町民の安心安全がこの江府町から全国に広がっていくようにしていきませんか。町長の御所見を伺います。よろしく申し上げます。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 川端登志一議員の御質問にお答えします。

土木建設関係の技士が、民間企業でも行政のほうでも確保が難しいということで、いろいろな提案をいただいたところであります。役場のほうもずっと土木技士を募集してましたけども、なかなか応募がありませんでした。ただ、うれしいことに今年は1人応募がありました。ということで、一つちょっと前進したかなという気は、ちょっとほっとしてる、まだ合格したわけじゃないのであれですけど、応募があったということでちょっとほっとしているところであります。今、役場だけじゃない、恐らく民間も含めてのお話だと思います。ですので、これはなかなか本当に人材確保の話、要は職業選択の話につながってくると思いますので、いろんな要素がそこにはあると思います。給料の面だとか待遇の面とか様々ありますので、そこにちょっと行政のほうで踏み込むのは難しいのかなというふうに思っておりまして、ただ、御提案のあったように、やっていることを認めてあげるといことはとてもいいことだとは思いますが。実は、議員もこないだ出席されたと思うんですけども、5月29日に二ノ沢の砂防堰堤の完成式があったんですけども、その場で実際に設計、管理、施工された業者の方がきちっと表彰というか、やったことをたたえられたということ、私も聞いていてそのときの実際の苦勞が直接話が聞けてよかったなと思いますし、何とすばらしいことをされてるんだなというふうに改めて認識したところです。ですので、いろいろ御提案もありましたけれども、要はそういったことをたたえてあげることが大事ですし、それをまたPRしてあげるといことは重要だというふうに思います。直接このいただいた提案をやるというわけではありませんけれども、基本的に機会があれば、町内でいろいろと建設関係関わっておられる方の行動といいますか活動を、町報なりで取り上げることはやってみようというふうに思います。

ただ一つ、やはり根本的な問題として、子供の頃からの教育というのが大事だというふうに思っております。今、4月から奥大山江府学園になったわけですがけれども、やはり地元で地元のそういった基盤を支えている事業者の方がおられるということ、やはり日々の教育の中で教えていって、将来やっぱりなりたいなと思えるような教育も大事じゃないかなというふうに考えます。以上でございます。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば許可します。

川端登志一議員。

○議員（４番 川端登志一君） 早速お答えありがとうございます。私もたまたま二ノ沢の砂防堰堤の完成式におりまして、元国交省の職員だった参議院議員の先生のお話も聞いて、本当に感銘を受けたところでございます。もう少し踏み込んで言うと、その先生は現職時代はダムの専門の先生で、その折に３つのダム工事に携わったんですけど、そのうちの１つの工事について、携わった全ての方の名前を記す石碑といますか、銘板を作ったということで、その人数は実に1,000人以上の名前を記させてもらったということで、やはり規模にはよりますけれども、やろうと思えばやれるんだなというお話を聞いたところでございます。

それから、ごくごく近いところの出来事では、先頃時局と申しますか、国政報告会の中でも先生方がいろいろお話をされる中に、その中でも有事の際に頑張っておられる団体の話が出ました。いろんな話で建設関係の中で出てくるのかなと思ったら、やはり消防団が一番と。何事があっても真っ先に駆けつけるのが消防団だと、今その消防団の人数が減ってるので、そのことについてしっかりと助成をしたいというようなお話はございましたけれども、残念ながら建設業界が一線で頑張っているという話は、しばらく聞いておりましたけれどもなかったということで、やはり意識の中に順番として、ベスト３とかベスト５の中に入っていないんだなということを感じたところでございます。やはりそういう意識があるリーダーが、地方において行政等、あるいはいろいろな行事、事業を行っていけば、今町長さん、おっしゃられました幼い子供たちの教育が大事だということでございます。やはりそういう大人、あるいはリーダーの方がそういう意識を持って、同じく平等に非常に全て尊い仕事なんだということで、教育とかそういうことに当たっていただければ、現在のようなことが少しでもなくなるのではないかなというふうに思いますので、その辺りの教育的な進め方をもうちょっと具体的に意識を持って進めていただきたいということと、それから、近未来あるいはごくごく近い将来の子供たちというのは、電子機器というのが恐らく必須のアイテムということになろうかと思えます。先ほど、元国交省の職員だった先生のお話をしましたけれども、その時代には今のようなITとか、電子化の時代ではなかったので、恐らくアナログで大きな石碑にものを書いたんだろうと思えますけれども、今はごく本当に小さなものを現場のどこか片隅にぺたんと貼って、そしてその子供たちが学習の機会か、あるいはプライベートでも出かけて行って、ぱっとこうスマホか何かかざして見れば、その当時の建設の途中の写真とか、そして頑張っている職員の皆さんの名前とか様子が映ることができれば、あっ、ここにおじいちゃんの名前があったとか、お父ちゃんがここで頑張ってる、本当だな、えらい家で

大きなことを言っとったんでほらかと思っとたら本当だったみたいなことが、本当に生きた教育につながっていくのではないかと思いますし、そして、建設に携わる人たちの社会的地位がもっと今よりも向上するのではないかなと思いますので、改めていま一度お気持ちを聞かせていただきたいというふうに思います。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 1つは、教育のほうにそういう意識を持ってということでありました。建設の業界の方だけじゃなくて、やはり未来のある子供たちには、職業選択の幅を広げて、いろんな仕事があって、それが世の中の役に立っているんだよということを教えるような教育をすべきじゃないかなと思いますんで、せっかく教育長もいますんで、また、この後答えていただけるのでしょ、きっと。

それと、もう一つQRコードの話もありましたけど、ちょっとどこで線を引くかっていうのが非常に難しい。例えば、こないだの本当に二ノ沢堰堤みたいな大きな工事であれば、本当に記念碑的にやればいいのかと思いますけども、ちょっとした修繕とかそういったことまでやるのかなとなるとどうかなという気持ちがありますので、その辺りはちょっと慎重に考えさせていただきたいと思います。以上です。

○議員（4番 川端登志一君） すみません、先にちょっと。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば。

○議員（4番 川端登志一君） その後、教育長、お願いします。

全てというふうに私も言ってるわけでもありません。取りかかりですので、初手は何か選んでいただきたいです。なので、一番に優れた出来栄えや難易度、危険度の高い工事と、特に災害復旧工事などを顕彰してほしいと、それをデータ化とかしていただければよろしいと思います。何ていうか、今、予算規模とかいろいろ江府町もそう多くはないですので、あれもこれもという、どれにしようかなというよりも数が少なくなってますので、やろうと思えば選定が比較的できるんじゃないかなと思います。

それから子供たちに、建設業に限ってということでは本当にありません。いろいろな職業、農業にしても。ただ、農業なんかでも、例えば道の駅にのぞいても出品された商品に売手はもちろんですけども、作った人の名前が今ほとんど明示されています。また、それと同列ぐらい、我々も造り手として、造った者の責任として、やっぱり名前とかいろいろな情報を記してもいいんじゃないかなというふうに思いますので、そういう意味で教育も進めてほしいというふうに思いま

す。御返答をお願いします。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

富田教育長。

○教育長（富田 敦司君） 御質問ありがとうございます。教育委員会においては、今、いろいろなところからこういった教育をやってくれというようなリクエストがございます。例えば、食に関する教育をやってくれでありますとか、あるいは福祉の教育をやってくれ、あるいは裁判員裁判が導入されたときには司法教育をやってくれとか、今なんか放射線教育までやってくれというようないろいろなリクエストがございます。学校は学校で限られた時間の中でいろいろやって、まず教科書でしっかり教えるべきことをやっていくということになっていきますと、なかなかいろいろな教育をやっていくような時間が確保できないというような現実も実際ございます。

そういった中で、子供たちにしっかり教えてやりたいという中身も当然ございますので、今いただいた御意見を学校のほうと相談してみたいというふうに思います。それを一つ取り上げて教育するっていうことではなくて、例えば議員が以前御提案いただきました、例えばトンネル工事につきましても、そういった場面で土木技士の話も子供たちと一緒にやってくとか、あるいは職業体験というものを8年生がやるんですが、その中で講師として来ていただいてお話をお聞きするとか、いろいろなことが考えられると思いますので、ちょっと検討してみたいというふうに思っております。

○議長（三好 晋也君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） ちょっと補足なんですけど、今、以前の防災・情報センター（愛ベルこうふ）のほうで、「まなびや縁側」というのをやっています。こちらのほうに例えば講師で来ていただいて、そういったようなお話をしていただくのも、また一つあるのかなという気がしますので、これはちょっと検討事項ということで御提案したいと思います。

○議長（三好 晋也君） 川端登志一議員、一言お断りしておきますが、質問通告書の中には教育長に答弁を求める対象ではなかったと思いますが、今回は町長の補足の答弁ということで理解をしていただきたいと。よろしくをお願いします。

川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） ありがとうございます。御忠告いただきました。町長さんが御厚意で振っていただいたので、大変感謝しておりますのでありがとうございます。

今、町長さんのほうから、そういう、逆に提案もいただきましたので、ぜひともそういうことを進めていってほしいなということが一つと、最後に、これはお答えは要りませんが、いろいろ

なアンケートとか調査を見ますと、保育園あるいは小学校の低学年におきましては、どのお子さん、男女を問わずものづくりをする職業というのが本当にナンバー１、ナンバー２、ナンバー３ぐらい並んでいるんですけども、これがだんだん大きくなって、いよいよ社会に出て職業の選択をする頃になると、実業あるいは虚業に順序が転換をしたりすると。そういうことで肉体労働に汗をかくような業界がなかなか少なくなっているというような現状がございます。ぜひとも子供の頃に抱いた夢が素直に実現できるような教育といいますか、そういう環境をつくってやってほしいなというふうに思います。以上でございます。

○議長（三好 晋也君） これで、川端登志一議員の一般質問を終了いたします。

続いて……。

○議員（４番 川端登志一君） すみません、あと……。

○議長（三好 晋也君） まだあるの。（「３番目」と呼ぶ者あり）

失礼しました。３番目の質問お願いします。

川端登志一議員。

○議員（４番 川端登志一君） 失礼します。３番目の質問をさせていただきます。

江尾駅前活性化と空き家対策についてでございます。先頃、江尾駅開業１００年を祝う式典が開かれまして、その功績がたたえられたことであります。当時のことを伝え聞く古老の言葉や写真などからも、駅前を中心に活況を呈したことが容易にうかがわれます。さらに、そこから４０年遡れば、役場所有のジオラマのごとく、楚々とした集落から現在まで、よくぞ江尾の町が発展したなというふうに思う次第であります。その歴史の中に、今に伝わる十七夜祭りがあるということだと思います。そして、十七夜のにぎわいをより強く印象づけ演出したのは、南北に貫く町道とこの駅前広場だったと思うのであります。さらに言えば、沿道に住まう多くの住民をはじめとする全ての町民の奉仕の結晶だとも言えます。しかし、近年の沿道住民の減少と、それに伴う空き家の増加は、往時のにぎわいをそのまま継続するのは困難なときが来たようにも思われます。

そこで提案ですが、この増加する空き家を活用し、町にとってなくてはならない十七夜祭りを併せて盛り上げ、持続可能なまちづくりとするため、思い切った事業を計画してはどうでしょうか。

①時代に沿った十七夜の企画をする。実態としての、これは例えばですけども、実態としての宮相撲と並行して、アバターが競技するeスポーツの相撲大会、あるいはその他の競技大会を実施する。そして、久連山に投影するレーザー花火など、ノスタルジアと科学技術が共生する催し

などを企画したらどうかと。

②として、江尾地内の空き家、空き地を活用し、年中十七夜祭りが体感できる展示とイベントや、他に先駆けた環境大国にふさわしい無人の乗合電気自動車を中心とした新交通システムを導入して、観光や買物、通院などの基地としてはどうでしょうか。

③それらの事業の協力者への税の優遇措置などを実施してはどうでしょうかと。まだまだ思いつくことはありますが、空き家がこれ以上増えないためにも、また今ある空き家、空き地を有効活用するため、何かしら具体的な事業を実行するべきと思ひ、提案いたしました。町長の御所見を伺います。よろしくお願ひします。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 川端登志一議員の御質問にお答えします。

江尾十七夜の話と併せまして、空き家の活用の話がされました。幾つか御提案がありましたけれども、みんな十七夜の企画ということでございました。新型コロナウイルス感染症のために、この2年間というか、2年連続で江尾十七夜は開催されませんで、もう本当に無観客のこだい踊りだけという状況でした。花火もちょっと打ち上げたんですけども、そういう状況でした。今年がどうなるのかなということで、近々実行委員会も開催されるということでございますけれども、江尾の大区のほうから出た意見によりますと、テキ屋さんはちょっと来てほしくないなというふうなお話もちょっとあったりしまして、なかなか従来どおりのにぎやかな形の十七夜はまだ難しいのかなという気はしていますが、これから実行委員会があって実際に決まるというところでございます。

御提案、1つずつ言いますと、時代に合った十七夜企画ということで、eスポーツとかレーザー花火、個人としては面白いなと思いますが、やはりいろんな方がおられますので、どの程度を実行できるかというのは分かりません。ただ、今、例えば壁面に映し出すような技術が、何て言ったですか……（「プロジェクションマッピング」と呼ぶ者あり）プロジェクションマッピングのようなことを実際に何年か前の十七夜ではやったこともありますし、徐々に進化させていっておりますので、今日お話のあったようなことなどは、実行委員会メンバーが話を聞いて、今後取り入れるかどうかを恐らく検討するんじゃないかなというふうに思います。

それと、空き家を使って年中十七夜を体感できる展示ということでございますけれども、これ、なかなか私としてはもったいないというふうに思っています。単に展示施設として使うのはどうかなというふうに思っていて、例えば今、本町4丁目に空き家があったものを改装して、お

試し住宅にしたものがございます。例えばそういったことで活用するとか、何かやっぱり空き家のまま置いておくのはどうなのかなというところを活用できる方法にするという点では考えは一致していると思うんですが、年中十七夜が体感できる展示っていうのは私はちょっとどうかなというふうに思っています。

あと、新交通システムの話も出ました。江尾のあの町なかを例えば小さな電気自動車が行ったり来たりするみたいなのは、確かに夢があって面白いと思います。実際、短いというか、本当に短い距離を、もうなかなか自分で歩いていけない高齢者の方もおられますので、確かにそういうのも面白いと思いますが、現状、あそこは車がもう2台来ただけでもう擦れ違いができなくて、どっちかが止まっているというような状態ですので、アイデアとしては面白いんですけど、ちょっとすぐすぐできるかどうかとなると、どうかなというところでございます。

税の優遇については、そういったことが実現したときに考えるのかなということですので、ここではちょっと発言は差し控えさせていただきたいと思います。取りあえず、御質問に対してはそういうことですが、この江尾の一応中心部ですので、本当に私も隅っこのほうに住んでいるんですけども、やっぱり向かいとか隣とか、もう空き家がどんどん増えているのは本当に悲しいことでありまして、雪が降ると、雪かきも非常に多くの範囲をしないといけないというようなこともあったりして、とても大変です。ですので、何とか、時間はかかるかもしれませんが、ここをもう一回、元に近い状態に戻せないかというようなことは、ちょっと時間がかかりますが考えてみたいというふうに思います。以上です。

○議長（三好 晋也君） 再質問があれば許可します。

川端登志一議員。

○議員（4番 川端登志一君） 江尾十七夜のメインイベントっていいですか、皆が本当に1万人も2万人もやってきてくださる目的っていうのは、やっぱり夜店の多さにあるんじゃないかなというふうに思います。先ほど、町内の事情を話されましたけれども、どういった理由でそういうふうに行われているのか私は推測もできませんけれども、ただ、事実として、このコロナ禍の期間と、プラス少子化に併せて露天商の方の廃業がどんどん進んでいて、昔のように集合、はい、といったときに、以前のような数が来ていただけるかどうかというのは、保証の限りではないというのが、私もちょっとデータありますけれども、そういう心配がございます。なので、でも、これは先ほど言いました観光協会の方の比重が大きいんですけども、なので、やはり皆さんが思う十七夜の夏祭りのイメージとしてはやはり夜店というのは欠かせないということですので、例えば夏休みの間の大学生の方たちの体験的なこととして、模擬店を出店することを支援をさせ

てもらおうとか、あるいはそういうことが定着してどんどん入ってこられる、そしてコロナも終息するということになれば、観光客向けの方に男女向けの浴衣のレンタルとか、着ていただくようなサービスを提供すると。そしてその浴衣なんかも、だんだん空き家が増えておりますが、町内よりたんに眠っているような浴衣を提供してもらって、それを希望者の方に着て闊歩してもらおうというようなことも考えていけば、昔ながらの懐かしい夏祭りを何とか維持、継続していけるんじゃないかなというふうに思いますし、また、空き家、空き地につきましての有効利用でございますけれども、ただ十七夜のイベントのときだけにしますと、費用対効果といいますか、非常に効率が悪うございますので、例えば江尾の町、今一生懸命活動を頑張っておられる江美城を探索会の成果として、あの周辺が非常にきれいになって歩きやすくなっております。聞くところによりますと、結構見に来られる観光客の方も増えているというようなことでございますので、そういった方が、ただお城を見て、後、帰るということではなくて、その昔、殿さんや町民が歩いたであろうその周辺を散歩して、あるいは見学してもらおうときに、ちょっとした休めるような休憩所のようなところに活用をしていただいたり、それから、江府町は水の町でございますので、温泉はなかなか出ませんが、ちょっとした井戸を掘ればすぐ水が出ますので、そういう水を活用した水の体験場、あるいは足湯ならぬ足水というようなことを体験できるような観光客向けの休憩所等に、それ1か所とかでなくて、今町長さん言われましたように、本当に何百メートルも歩けませんので、ちょっと見たら、またそこにあるというようなことを考えていただいたらどうかというふうに思います。

それから、税のことについては、実現してからというふうに言われましたけれども、例えばそういうことに協力していただいた方には、例えば解体後、無償で貸してあげるよとか、そういう方については解体費用の補助の上澄みとか、固定資産税の減免を考えてあげるとかというようなこと、魅力をアップして、いつまでも投げておくとか特定空家というようなことになりかねません。そして、周りの住民、町民の方に危害を及ぼすことになりかねませんので、積極的に処分を考え、決断をしてもらおうような魅力を投げかけるということも観光振興と併せて、空き家対策とリンクした政策ができるんじゃないかなというふうに思いますので、その点併せて質問させていただいたわけでありまして。もう一度、総合的にお答えをいただければというふうに思います。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 御質問の内容が2つあると思うんです。十七夜を含めた町のにぎわいをどうするのかという話と、それともう一つが空き家対策、この2つだと思います。

最初のほうの町のにぎわいの話に関して言いますと、先ほど江美城を探る会の話をして、この活動がなかなかにぎやかになってきたということでございます。実は、いろいろと歩くルートも決められて、ガイドも決められて、それで自分たちで勉強されてやっておられます。町のほうも江美城の資料館、お城の形をした資料館に上られるようなアプローチロードといいますか、ここがちょっと危ないんで直すような予算もつけておりますし、そういった形で、要は頑張っただろうというところを支援しながらにぎやかにしていきたいなと思います。

露天商の集合体の話もありましたけど、確かにおっしゃいますように、例えば大学生がそれを代わりにやってみようようなチャレンジを、これから仕掛けていくこともあるかもしれません。ただ、行政のほうが一方向的にそういう仕掛けをするのではなくて、やはり実行委員会の人たちがこれからの祭りはこういうふうにやってみようということを企画されたものについて、行政が支援するという形を取りたいというふうに思います。

空き家対策でございますけども、これ、本当に深刻な問題ではあるんですけども、現状、そこにもいずれは手をつけたいとは思っておりますが、現在、佐川地区の住宅の話、そして旧役場本庁舎、これの解体、そしてこれをどうするかということがありますので、まず、その大きなものを片づけつつ、その江尾の町なかのことをやっていきたいと思っております。若干時期は重ねてもいいのですけれども、とにかく失敗できないというか、とにかく全力で向かうのは、佐川と、それと旧役場庁舎の始末といいますか、これを優先して行いたいと思っております。以上です。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） では、これを最後の質問といたします。

電気自動車の話が出ませんでしたので、もう一度お尋ねをしたいと思っております。今、数々提案しましたことにつきましては、ぜひ優先順位もございまして、順番が巡ってきましたら、ぜひ取り組んでいただきたいということでございまして、私がこの電気自動車をお話するのは訳がありまして、やはり江府町というのは環境王国というのを標榜していると。確かに優れたすばらしい自然を持っていて、水も空気もすばらしいということでございまして。そして、そのやっぱり中心地がその筆頭であったほうがいいというふうに思うわけでございまして。一般的な生活空間の中に、いきなり無人の電気自動車を走らすというのは無謀なようございましてけれども、例えば時間規制をして、何時から何時までは一般車両の通行を御遠慮願って、その間は時速4キロ、5キロの非常に低速した無人の、完全電気自動車です。ハイブリッドではなくて完全な電気自動車を低速で走らせて、そしてその止まる基地が空き家を活用した空き地であったり広場であったりを、そこで乗り降りをしてもらうと。そして、周りの市町村から見たときに、やはり江府町はそ

ういう先進的な取組を進んでいる、さすがだなということで発信していただいて、そしてそのことによって観光客というか、関係人口を増やしていくということになるのではなかろうかなということも併せて思ったので、提案をしてみたところでございます。もう一度だけ、そのことだけお答えいただければと思います。

○議長（三好 晋也君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 自動運転による電気自動車に関しては、私は江尾の町なかだけを走るといよりも、例えば、今、久連トンネルの工事をやっていますが、何年か後にはこのトンネルが開通して、結構な交通量が国道181号も減ってくると思うんです。ですので、さっき質問ありました道の駅から佐川の団地とか、ずっと江尾の中心部、そして最後、一番上の、あやめの辺りまで、ぐりぐり回るような自動運転のものがあってもいいのかなとは思っています。ただ、まだちょっと全然着手をしていませんので、まだ何とも言えないんですけども、何年か後には交通量が多分激減すると思いますんで、それに合わせるような形で検討していきたいというふうに思います。以上です。

○議長（三好 晋也君） 川端議員。

○議員（4番 川端登志一君） 期待しておりますので、ぜひ実現するようによろしく願います。

以上で質問を終わります。

○議長（三好 晋也君） 以上で、川端登志一議員の一般質問を終了いたします。

続いて、質問者、3番、森田哲也議員ですが、本日欠席のため、会議規則第61条の4の規定に基づきまして終了といたします。

○議長（三好 晋也君） 以上で、本日の議事日程は全部終了いたしました。

これをもって散会といたします。御苦労さまでした。

午前11時50分散会
